

令和6年7月19日	
篠栗町立篠栗中学校	
校長 早川 昌吾	
生徒数	627名
1年生	192名
2年生	226名
3年生	209名

節目の日(終業式) しっかり振り返って、次のステージへつなぐ

4月の始業式から約3か月間のあわただしい学期が終わりました。明日から楽しい(受験生は勝負の)夏休みです。

篠栗中では、今年は昨年度よりも増して、「つながる」「ささえる」「かなえる」視点で目標を立てたり、振り返ったりすることを繰り返すことに重点を置いてきました。

体育会では、素晴らしい「つながる姿」「ささえあう姿」を見せてくれました。

また、普段の授業においても、「学び合い」が少しずつ浸透してきていると思います。学校通信6月号で、「学習評価の「基本的な考え方」について」お伝えしましたが、身につけるべき資質・能力において大切なことは、ペーパーテストでの「結果」よりも「過程(プロセス)」の方が大切だということを再度確認しておきたいと思います。

仲間と話し合ったり、考えを交流したりする「学び合い」という学習過程をさらに充実させること。そして、**自己の考えを表現する(発表したり、プレゼンしたり)「アウトプット」を重視することが知識の定着度においても脳科学分野においても有効であることが証明されています。**仲間に関心の解き方や自分の考えを説明したりすることは、仲間を『ささえる』ことにもなりますが、自分自身の為にも大いに有効であることをわかってください。

1学期を振り返り、今後の自分の頑張り方を考える大切な視点3つ

つながる(人間関係形成)

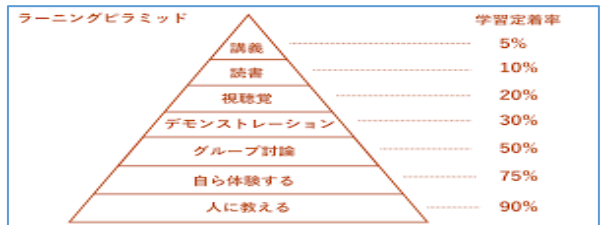
他の人の考えや個性を受け入れ、協働活動や話し合い活動を通してよりよい人間関係を創ることに対して、1学期はどうでしたか? また、2学期どうしたいと思いますか?

ささえる(集団参画)

学級・学校生活づくりを自分事として捉え、任された役割を果たしながら学級や学校をよりよくするために、自ら進んで参画することに対して、どうですか?

かなえる(自己実現)

集団と自己との関係を保ちながら、自己の課題を見つけ、よりよく改善することを通して、現在および将来の自己の生き方・在り方を考えることに対して、どうですか?



9月には、1年生は「ふれあい合宿」2年生は「生徒会選挙」3年生は「高校授業体験」それぞれの学年における「体験」と「事前・事後の取組」を通して「**自分はこれからどのように仲間と関わり、どのような道程(人生)を歩んでいくのか**」ということを考えながら取り組んでいきましょう。そして、一人ひとりの「**自己の在り方**」という自己実現への展望が、ぼんやりしたものから、少しずつはっきりしたものへと、育んでいってほしいと想います。

そもそも「心」と「行動」どちらが大切? 考えてみましょう…

人は時々「心」にこだわります。特に中学生期は、自分の心の在り様がとても気になるようです。自分を見つめ、自分の生き方を深く考えることは、自分を成長させるためにとても大切なことです。

しかし、心にこだわりすぎると、よいことをしようと思っても、人の目を気にするあまり、臆病になってしまうことがあります。「いい子ぶりっこ」などといった、行動を否定するような言葉に迷っている人もいるのではないのでしょうか。

そこで考えてみてください。

ある二人がいるとします。Aさんは「優しいことをしたいと思っているのに、人目を気にするあまり、行動できない人」そしてもう一人のBさんは「決して純粋な理由ではないけれど、よいことを行っている人」どちらの人のほうが価値があるのでしょうか? 右に掲載した詩「行為の意味」にも似たようなことが書かれています。

そもそも「心はみんな違っていい」はずです。人の価値観、考え方はみんな違うのが当たり前です。ですから、篠栗中がめざしている「日本一温かい学校」とは、あいさつや支え合い、助け合い、呼びかけ・反応などの「温かい行為があふれる学校」だと思っています。「心」にこだわりすぎず「行動」に着目してみてください。

行為の意味

宮澤章二

「あなた」の「こころ」は、どんな形ですか
ひとに聞かれても、答えようがない
自分にも他人にも「こころ」は見えない
けれど、ほんとうに見えないのだから
確かに「こころ」は誰にも見えない
けれど「こころづかい」は見えない
それは、人に対する積極的な行為だから
同じように、胸の中の「思い」は見えない
けれど「思いやり」は誰にでも見られる
それも、人に対する積極的な行為だから
あなたがたの「思い」は、あなたがたの
「こころ」も「思い」も、初めて美しく生きる
それは、人が人としていきることだ

挨拶の輪が広がっています

篠中もりあげ隊は毎月15日に駅前地域の方たちと一緒に挨拶運動を頑張っていますが、その「挨拶の輪」が広がっています。

それは、自ら進んで志願し、挨拶運動に参加してくれる人が増えていることです。先日は、学校の正門や昇降口で挨拶運動に参加してくれた生徒が50名を超え、大いに盛り上げてくれました。篠中やふるさと篠栗町の人達をつなげるとても意義深い取組なので、今後さらに発展してくれることを祈っています。



平和学習から学んでほしいこと

夏が近づくと、楽しい夏休みや頑張りたい試合やコンクールですが、我々が忘れてはいけない過去があります。

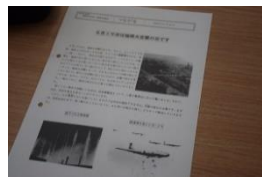
6.19 福岡大空襲、6.23 沖縄戦、8.6 広島原爆投下の日、8.9 長崎原爆投下の日、そして8.15 終戦記念日……。それだけではなく多くの命が、多くの悲惨な事実が戦争という争いの犠牲となりました。戦後79年が過ぎ、直接戦争を体験した人たちも高齢化し、語り継がれる機会が減少し、ますます人々の記憶や感情が風化してしまうことが懸念されています。

篠栗中では「平和学習」に力を入れています。生徒の皆さんに学習してもらおう資料を何度も何度も先生達で話し合いながら検討し、提案させてもらっています。

それは、これらの戦争や争いごとは、決して他人事ではなく、『自分事』であるという意識を皆さんに持ってほしいからです。

皆さんも、普段の生活の中で、意見や考え方が対立し、気まづくなったり、トラブルになったりした経験があると思います。そこで、話し合うことをあきらめて、腕力・発言力などの「力」で解決しようとしたり、同調してくれる仲間を募ったりして「数的優位」という圧力を行使したりすることになっていませんか？

意見や考え方が「対立」することは必ずあります。大切なことは、対立をどう解決していくかです。また、相手の言い分（想い）を相手の立場に立って理解しようとすることも大切なことです。今、自分に何ができ、何をすべきかを、一人ひとり考えてみてください。



規範意識に関する2講演会実施

6.27 性の健康と権利に関する学習会、7.8 情報モラル講演会を、それぞれ講師を招いて全校生徒で講話を聴くことができました。

性に関する学習会では、篠栗町スクールカウンセラーの山内先生から、もし性暴力にあってしまった際は、「言っただけではいけないこと？」として我慢するのではなく、信頼できる大人に相談すること、情報モラル講演会では、NPO法人子どもとメディアの荒牧先生から SNS 投稿において「公開性」「記録性」などの怖さについて学ぶことができました。自由な時間が増える夏休みにこそ、スマホにおけるマイルールを決め、自分自身を大切にしてください。



性の健康と権利に関する学習



情報モラル講演会

茶道部が篠栗町文化協会とコラボ

7.7 七夕の日、篠栗町文化協会主催の「文協邦楽まつり」がクリエイティブで行われました。そこに、本校茶道部有志が、ロビーにおいて参加者の皆さんに、お茶をたてふるまうことになりました。参加者の方々は、中学生がたてた抹茶と、地元村嶋饅頭のおいしいお饅頭で大変喜んでおられました。

「一期一会」という言葉の通り、相手に対する自分の持てる限りの心配りを意識した立派なお手前だったと思います。



部活生の暑い夏はまだ続きます

6月号で紹介していましたが、中体連夏季総体は、糟屋区大会を終え、柔道部が女子団体優勝、男子が準優勝、ソフトボール優勝、卓球部団体優勝、その他野球部、男子バレー部、女子テニス部、陸上部などが筑前大会へ進出しています。また、吹奏楽部も7.23にコンクール本番を控えており、部活生の暑い夏はまだまだ続きそうです。

